

**授業概要**

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。教師といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。発達心理学に関する学問的知識の紹介にとどまらず、学校現場における児童生徒の様子やいじめ、不登校といった諸問題についても取り上げる。

**授業計画**

第 1 回	教育者のための発達心理学とは
第 2 回	教育現場における最近の話題
第 3 回	胎児期から新生児期の発達と特徴
第 4 回	乳児期の発達と特徴
第 5 回	乳児期の発達を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 6 回	幼児期の特徴
第 7 回	幼児期の発達を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 8 回	児童期の特徴
第 9 回	思春期の特徴
第 10 回	障害の分類と特徴
第 11 回	障害の特徴を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 12 回	特別支援教育の実際
第 13 回	社会福祉施設に入所している児童・生徒の特徴と生育の背景について
第 14 回	児童生徒を支える社会的資源
第 15 回	生涯発達の視点からの児童・生徒理解
第 16 回	試験

**到達目標**

- 発達心理学の基本的な知識や概念を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- 教師となった際に、学習内容を学習指導、生徒指導、教育相談、キャリア教育などの場面で生かすことができる。
- 学習を通じて、児童・生徒との関わり方、同僚の教師との関わり方、保護者との関わり方などにも興味・関心を持ち、実践に生かすことができる。

**履修上の注意**

- 将来、教師を目指し、自分から学習する意欲があること。
- グループワークを取り入れた学習を行います。グループ毎に発表します。

**予習復習**

予習としてテキストを最低3回音読してから授業に臨むこと。復習においても学習箇所を3回音読すること。授業の中で初めて聞いた言葉、発達心理学の専門用語については、事典を使って調べること。

**評価方法**

評価基準は授業への参加と発表(30%)、授業中の課題への取り組み(30%)、期末試験(40%)である。

**テキスト**

初回授業で指示する。